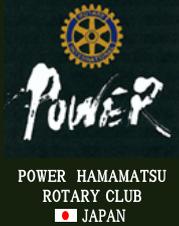


国際ロータリー第2620地区
静岡第5グループ



2018-19 週報 パワー浜松ロータリークラブ

「能動的に参加し、お互いを高めあおう」

RI 会長 バリー・ラン / 第 2620 地区ガバナー 星野義忠 / 会長 鷺津有一 / 幹事 鈴木一広
〒430-7733 浜松市中区板屋町 111-2 オークアクトシティホテル浜松 4307 号室 Tel:053-452-0800
Email:info@power-hamamatsurc.jp http://www.power-hamamatsurc.jp
創立：2002年10月22日 認証伝達式：2003年4月29日 スポンサークラブ：浜松中RC



第728回例会7月31日(火)AM7:30~8:30

- 会場：オークラアクトシティホテル浜松3階 チェルシーの間
- 司会：高木一浩 中野雄介 ■点鐘：野田みよ子 ■週報：高貝亮
- ロータリーソング：「奉仕の理想」 ■体操のお兄さん：小川善嗣
- ゲスト：元パワー浜松 RC 会員 藤田允様
米山記念奨学生 肖 英華さん

出席報告/スマイル報告

会員数 78 名 (内出席免除会員 2 名)
出席数 60 名 出席率 78.95%
前々回出席率 81.58%

- ① 伊藤勝人さん 肖英華さんに奨学生学友証明書をお渡し。
- ② 出席部会 高橋さんと豊田さんを囲む会を開催しました。

会長挨拶

鷺津会長に代わっての挨拶です。はじめてのことでときどきしています。藤田允さん、お越しいただきありがとうございます。パワーRC 一同、再入会をお待ちしています。

今日は、ビーチテニスを夏にふさわしいスポーツとしてご紹介します。以前に、私の姪でビーチテニスの高橋友美選手に例会に来ていただいたことがありました。ビーチテニスは、イタリアの発祥で、日本に来たのは約10年前。10年前に比べるとプレイヤーは増えています。



先日、元テニスプレイヤーの沢松選手が石井アナウンサーと一緒にビーチテニスをプレイするところを紹介するテレビ番組がありました。7月31日、今日ですが、高橋選手は、イタリアのチェルビアでチャンピオンシップの大会に参加しています。チェルビアはイタリアを長靴に喩えると長靴の上の方の海岸沿いの町です。このイタリアでの大会が終わると、モスクワで世界大会があります。世界ランキングをつける大会で、24か国の最強の選手がでできます。高橋選手は、昨年は日本ランキング2位、その前は1位でした。現在、世界ランク26位で、そのランクを維持するのは大変なことだと思います。ときどき小田木さんに応援の協力をお願いしています。10年前にくらべると知られるようになってきていますが、これからの少しずつ応援できればなと思っています。イタリアの大会、ロシアの大会、皆さんの声で応援いただければと思います。よろしくお願いします。

幹事報告

- ①ロータリーの友を配布
- ②ロータリー財団など各種寄付の納入
- ③ガバナー公式訪問のお礼状

- ④西日本豪雨災害の義援金を地区に送った件
- ⑤松の植栽プロジェクト地区補助金の承認
- ⑥長期青少年交換事業派遣学生の件
- ⑦本日理事会開催

ハッピーバースデー

7月9日 森上会員 7月11日 後藤会員
お誕生日おめでとうございます。



議 事

「ねむの木学園 50周年を迎えて」(担当：出席部会)



元会員藤田允さんにお越しいただきました。藤田さんは、7年間にわたり当クラブでご活躍いただき、その間、10周年記念事業では、ねむの木学園の事業をご担当、宮城まり子さんとも大変親しくされておられます。

私は、昭和 22 年生まれで 71 歳になります。まり子さんとは 20 歳違いです。父親の転勤で浜松に来て、艦砲射撃のあとでした。そのころは、今のグランドホテルのあたりに住んでいたところ、あの辺には防空壕があり、爆弾が置いてありました。最近でも爆弾が見つかることがあるけれど、当時当たり前のようにありました。ちょうどその時分に、まり子さんの歌が流れていました。(ガード下の靴磨き紹介) この歌がまり子さんが世の中に出るきっかけになった歌です。昭和 30 年の歌で、そのころの日本の姿でした。

ねむの木学園は、現在は、掛川の上垂木にありますが、もともとは御前崎にありました。引っ越してきて「ねむの木学園」という名前です。まり子さんの自宅、住居、学校、美術館 2 か所、お店が 3 か所、吉行淳之介文学館、喫茶店などが点在しています。ねむの木村と総称され、広大な土地の中に施設が存在しています。独特の雰囲気があります。ねむの木村は、地域の中に溶け込んでありたいとの気持ちで運営されており、塀がありません。まり子さんの、すべての子どもたちに教育を受ける権利がある、との考え方のもと 1969 年、浜岡に 12 名の子どもをあつめてスタートしました。当時は、障害者をまもる法律はなく、日本で初めて障害を持つ子どもの施設としてスタートしました。当時の定員は 50 名、現在は 200 名となっています。障害を持つ子どもの施設の実現を訴え続けてようやく実現した施設になります。すべての利用者は、子どもちゃんと呼ばれ、60 歳になっても子どもちゃんと呼ばれています。「やさしいことは、つよいのよ」、とまり子さんの言葉で紹介されていますが、校則のようになっています。掛川に移転したのが 21 年前、当時の掛川市長の榛村さんが上垂木に転居することをバックアップしました。先日、榛村先生が亡くなられたとき、まり子さんは、榛村さんのいろいろな思い出を話されていました。また、まり子さんの弟さんが日坂の交通事故で亡くなられたということがあります。掛川には、いろいろな思い入れがあるのでしょうか。浜岡は、まり子さんいわく、原発ができたため、いろいろ悪い影響があるのではないかと考えて、原発を避けて掛川に移動されたということです。

村の紹介をします。職員の寮、あかしや寮。6 棟あります。子どもの店が 3 つ、毛糸屋さん、ガラス屋さん、雑貨屋さん、小さな建物が 3 つあります。小さなお店にしたのは、転んでもどこかに掴まることのできるのではないかとという配慮からだそうです。

喫茶店の名物はカレーライス。吉行淳之介文学館は、中に入ると手紙が 20 通ほど。淳之介さんがまり子さんに相談している内容です。淳之介さんは、絵が大好きで、洋画家の林武さんの作品も展示されています。自画像があります。林さんの作品は、10 号で 1500 万円くらい。ヘンリーミラーさん、田河水泡さんの絵なども展示されています。和心庵という子どもたちに茶道を教える茶室があります。裏千家です。

まり子さんとは、岐阜県の陶芸家近藤精宏さんの紹介で知り合いました。近藤精宏さんは、陶芸家小山富士夫先生の最後の弟子になります。近藤精宏さんの茶碗は、粉引きの茶碗で、白なのでお茶に合います。

そのようなご縁でパワー 10 周年のときに、まり子さんを迎えてのイベントをお願いしたところ、快く了解いただきました。

奥にはねむの木学園の美術館があります。特徴は連続した絵柄や原色の美しい色彩など。頭に入ったことをそのまま絵に表す、特別な才能だと思います。カレンダーの絵などとして販売されています。秋には運動会があり、体操、運動も一生懸命やっています。

先ほど、まり子さんの歌を聞いていただきましたが、本名は、本目まり子さんとおっしゃいます。東京都出身ですが、実家が貧しかったために、大阪で吉本喜劇でタレントのような仕事をしており、昭和の初めの世相を反映したガード下の靴磨きの歌で一躍有名になり、紅白に 8 回出場されています。女優であり、映画監督もされています。マルチな活動をされており。

90 歳を回られてお歳なのでできることも限られてきてはいますが、私たちもできる限り応援していきたいなと思っています。

最後に、まり子さんの気分転換について紹介します。いったん外に出て、ドアを出て入りなおす、今日のことは今日、明日のことは明日、と喋りやいなことを忘れる、とおっしゃっていました。参考になるかと思います。

ねむの木学園

<http://www.nemunoki.or.jp/>